

柏市民活動ニュースレター

2022年1月発行 第23号

新年明けましておめでとうございます

- 市民活動サポートコーナーは、今年も、皆様と一緒に柏の市民活動を盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
- 今年の干支は「寅」。2022年は壬寅（みずのえとら）といって、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年になるそうです。
- 「壬寅」にあやかって、コロナ禍を乗り越えて、柏の市民活動を盛り上げる年にしたいものです。



柏市民活動フェスタ&フリーマーケットぽかぽか市 2年半ぶりに開催！

- さて、昨年11月23日、コロナ禍で延期や中止が続いた柏市民活動フェスタが、フリーマーケットぽかぽか市と同時開催で、2年半ぶりに青空の下で無事行われました。
- 4つの会場合わせて約2,400の方が来場・参加しました。また、前日22日に市長として初登庁したばかりの太田新市長も、各会場を回って市民活動団体の皆さんと交流しました。
- 本号では、市民活動フェスタ&ぽかぽか市2021の様子を中心にお伝えします。



<目次>

はじめに	・・・1ページ
市民活動フェスタ&フリーマーケットぽかぽか市	・・・2～5ページ
協働まちづくりサロン「共生のまちづくり」	・・・6ページ
団体訪問記「布施新町いきいきネットワーク」	・・・7ページ
協働推進課だより	・・・8ページ

青空の下で開催された市民活動の祭典 4つの会場とリモートで盛り上がりました！

A 柏駅東口ダブルデッキは フェスタの“表玄関”

- ◆ 柏駅東口ダブルデッキでは、柏市観光マスコットキャラクターとしてデビューしたばかりの「かしもっちい」が、皆さんをお出迎え！
- ◆ また、テントブースでは、8団体が日ごろの活動を紹介し、その横では、7団体の活動をPRするポスター展が行われていました。



- 「かしもっちい」は、令和2年に柏市観光協会が公募し、作品267点の中から選定した柏市観光マスコットキャラクターの愛称。
- とてもシャイで、恥ずかしくなると柏の葉マントに隠れてしまう柏餅の妖精です。



B ファミリかしわ前広場は フェスタの“ハレ舞台”

- ◆ ファミリかしわ前広場は、市民活動団体のパフォーマーたちが日ごろ鍛えた「演目」を披露する年に一度の“ハレ舞台”です！
- ◆ 今年は、コロナ対策で人数制限がありましたでしたが、それでも、10 団体が多くの見物客を集め、フェスタを盛り上げてくれました。お疲れさまでした！



C ハウディモールは フェスタの“メインロード”

- ◆ 柏駅東口駅前通り「ハウディモール」は、毎年、歩行者天国に多くの活動紹介ブースが並び、市民活動フェスタの“メインロード”です！
- ◆ 今年は、フリーマーケット「ほかほか市」と同時開催になり、21 の多彩な団体ブースが立ち並び、「密」にならないように協力してもらいながら、大勢の来場者の皆さんに楽しんでもらいました。





D パレット柏は フェスタの“奥座敷”

- ◆ フェスタ会場の“奥座敷”パレット柏会場では、7 団体が参加して、ミーティンググループ等を使った体験型の活動紹介を行いました。
- ◆ また、パレット柏の特設コーナーで、家庭の余剰食品を寄附していただく「フードドライブ」も行われ、市民の方から善意の食品 100 品目を寄附していただき、福祉関係の 3 団体にお届けしました。ご協力ありがとうございました！



E オンライン講座、活動紹介動画 (You Tube) ～コロナ禍の中で生まれた新しい取り組み～

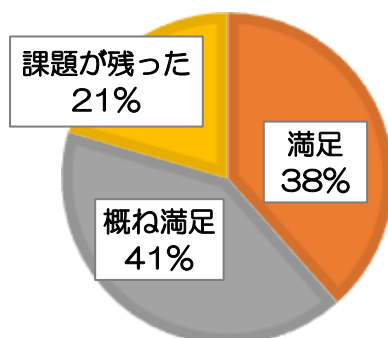


実際の
YouTube
動画をご覧ください。

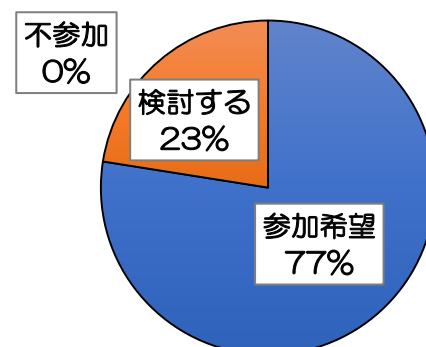
《参加団体アンケート結果の概要》

- 参加 58 団体中 40 団体から回答をいただき、このうち約 8 割が「満足」又は「概ね満足」、約 2 割が「課題が残った」という回答でした。
- 「満足」の主な理由は、「活動紹介ができた」「会のパワーアップにつながった」「日々の活動の中で良い刺激になった」「応援が励みになった」などでした。
- 一方、「課題」の主な内容は、「コロナ対策による人数や時間の制限」「総合案内からテントへの人の流れがなかった」「フェスタとフリマはイベントの性格が異なる」などでした。
- また、次年度の参加意向を聞いたところ、約 8 割が「参加希望」、約 2 割が「検討する」で、「不参加」という回答はゼロでした。

■ 参加の満足度



■ 次年度の参加意向



- このようなアンケート結果を踏まえて、市民活動サポートコーナーでは、2022 年度も、「課題」を解消しながら、市民活動の祭典である「市民活動フェスタ」と「フリーマーケットぽかぽか市」を、市民活動団体の皆さんと一緒に企画し、開催したいと思っています。ご協力をよろしくお願い致します。

共生のまちづくり

～あらゆる子ども・子育ての支援のあり方を考える～

協働まちづくりサロンは、市民公益活動団体と市の担当課がお互いの取組や課題を知り合う情報交換の場として年に数回開催されています。

令和3年10月13日(水)には、障がいの有無にかかわらず、子ども・共生・情報・相互理解をテーマにした「共生のまちづくり～あらゆる子ども・子育て支援のあり方を考える～」を開催しました。



「協働まちづくりサロン」チラシイメージ

市民公益活動団体からは、NPO法人 te-tte Tonerico (てってとねりこ)、柏市手をつなぐ育成会、柏子どもの文化連絡会、NPO法人赤ちゃんのほっぺ、市からは、障害福祉課、生涯学習課、中央公民館、子育て支援課、広報広聴課が参加しました。

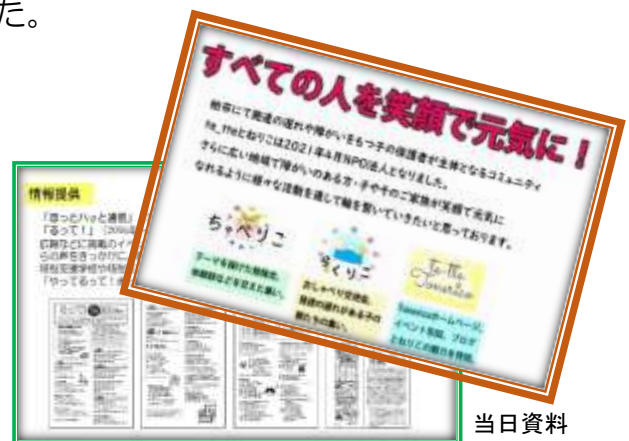
一般の申し込みの市民の方は12人で、オンラインでの参加となりました。

まずは、障がいのある子どもの保護者が集い、情報交換や悩み相談、学ぶことができる場等を企画、提供している、NPO法人 te-tte Tonerico (てってとねりこ) 代表、佐藤さんから活動内容や活動への想いをお話いただきました。

その後、市各課と各市民公益活動団体が、普段の活動やテーマに関わる取り組み等が紹介されました。

熱意ある紹介の数々で、会場で議論を深めたり、オンライン参加者から意見を聞いたりする時間が不足してしまったのが残念でした。しかし、「今まで知らなかったことを知る機会になった」、「行政の方々と障がいのある子育てについて現状を共有することができてよかった」、市の担当課からは「市民団体の方との新たな出会いの場が持てた」、「こういった行政サービスが必要か見つめなおす良いきっかけとなった」といった声が聞けました。

また、「サロンが開かれたことが第一歩」、「ここからが始まりで、ゆるやかなネットワークが広がっていくことを望む」、「このような集まりが多くなっていくと良い」といった感想が寄せられました。



当日資料の一部

協働まちづくりサロンが、様々な主体が出会い、相互の理解を深め、より良い課題解決につなげるきっかけになるよう今後もご協力をお願いします。

協働ってなあに？ 活動を聞きに行く 【その4】布施新町いきいきネットワーク ～市民団体×町会～

地域で自主的な防犯・防災活動や健康づくり、ボランティアや趣味を通じて親交を深める活動を推進されている「布施新町いきいきネットワーク」の皆さまに是非お話をうかがいたいと、昨年末、柏市北西部の布施新町へおじゃましました。

（取材日：令和2年12月18日）

この会では、健康長寿のまちづくりに向けて、ふれあいパトロールや支え合いネットなど8つの事業が実施されています。活動のきっかけは、平成23年度の布施新町町会で地域活動を行うボランティア団体の設立について行われた協議。多くの町会同様、町会役員は1年で交代するので長期的課題への対応が難しく、継続性の面から有志による団体の設立が検討されたとのことでした。団体は町会とは異なる組織ですが、歴代の町会長経験者が顧問として入会され、円滑な連携が可能になっています。活動資金としても、町会からの助成金やふるさとセンターの庭管理受託金が収入の柱となっており、町会との関わりが団体の運営を支えています。

【協働のポイント】

布施新町町会とのスムーズな連携・協働を軸に、地域に密着した活動が継続されています。町会からは助成金や回覧・掲示板での広報協力を得て、団体が夏祭りなど町会行事を支援するといったwin-winの関係。町会長経験者の団体加入により、自然と連携体制がとれているという印象を受けました。また事業の一つである「布施新町みらいプロジェクト」では、東京大学や

柏市、柏市社会福祉協議会との協働により超高齢社会における新しいコミュニティのモデルづくりが進められており、若い世代や子どもたちも参加しているとのこと。高齢化が進む中、町会自治会加入率の低下や役員のなり手不足は、どの地域にも共通する課題ですが、既存の町会組織と連携しながら、未来志向の活動を実践されている「布施新町いきいきネットワーク」の皆さまの活動スタイルには、多くのヒントがあるように実感しました。



【写真】取材当日・ふれあい体操の会の様子

取材・レポート：情報発信チーム

深津英雄・二瓶陽子



協働ってなあに？活動を
聞きに行く その4
フルバージョンはこちら

市民公益活動団体登録の更新・意向確認について

全登録団体が回答の対象です！！（令和4年2月末迄）

今年度、柏市協働推進課では、パレット柏開設に行った更新手続きから5年が経過していることに伴い、登録団体の皆さまに対し、**市民公益活動団体登録（柏市民公益活動促進条例上の登録）の更新の意向確認**を行っています。

この意向確認は、登録年月日に関係なく、**全登録団体が回答の対象です（※令和3年10月末時点での登録団体が対象）**。回答期限は、**令和4年2月末まで**となっていますので、まだ回答が済んでない団体の皆さまは、期限までにご回答ください。

また、期限内に回答のない団体は、市民活動サポートコーナーから活動の有無について確認の連絡を入れる場合があります。**最終的に団体活動の有無が確認できない場合は、令和4年度以降、市民公益活動団体の登録を取り消すこともありますので、ご注意ください。**

更新する

1. 登録更新申出書(意向確認票)
「更新する」に○、必要事項を記入
2. 登録更新チェックシート
各項目を確認、必要事項を記入

更新しない

1. 登録更新申出書(意向確認票)
「更新しない」に○をする
2. 解散届出書 必要事項を記入

【至急】

令和4年2月末迄
市民活動サポート
コーナーへ提出

※更新する団体は、市民公益活動団体の責務：『活動の公表』に努めることが条例に定められています。自分たちの活動とその目的が広く市民に理解されるよう、柏市民公益活動情報サイト「かしわん、ぽっ？」の利用登録を行い、積極的に活動を発信することをお願いいたします。



更新手続の詳細は、前号ニュースレター同封の関係書類、または右上のURLを ご確認ください

編集後記

昨年末に本号の編集を始めたときに、新型コロナウイルスの感染拡大が下火になり、「やっと市民活動の再開ができそうだ」と喜んだのも束の間、年が明けてオミクロン株による感染が急拡大し、状況が一変しました。4月号に載せたアマビエの再登場です。

オミクロン株の特性はまだ解明されていませんが、正しく恐れ、これまでの感染予防対策を続けていきましょう。

思う存分 市民活動ができる日が遠からず来ることを祈って・・・

